

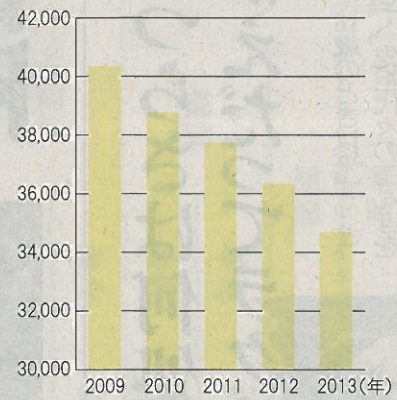
ガソリンスタンド減り給油難

農業用軽トラEV化

電気自動車

ガソリンスタンド(GS)はこの10年で3割減少し、農村部では給油のために遠い市街地まで車を走らせるなど、農業経営や日常生活に支障が生じている。そんな不便を解消しようと、各地で農業用の軽トラを電気自動車(EV)に改造する取り組みが進んでいる。

給油所数の推移



愛知で

自動車の街、愛知県豊田市で自動車工場の生産ラインなどを製造する新

改造事業、取り組み進む

走行距離など課題 車延命も狙い

進める市から、エコな未来の暮らしや最新の環境技術を体験できる「エコフルタウン」に、展示車をつくってほしいと依頼

市販の軽トラ(6000cc、積載量3500kg)をEV車に改造。エンジンを燃料タンクなどの付

スに乗せる計画だ。目標は走行距離500km。農家が所有している軽トラの改造を受注するもの

現在、モーターメカとゴルフカートを参考に、専用のモーターを共同開発中だ。10月に完成予定で、走行性能や安全性など実地試験を重ね、来年の夏までに市販にこ



「車体はグリーンで、荷台は木を使い、エコを強調する村瀬さん



充電部分

ラは自宅から園場や選果場などへの移動が主で、走行距離が短いと想定。コストを抑えるためバッテリーは鉛にし、荷物をスペースを確保するため

同様の取り組みで先行は「100万円出して新車を買おうより、車検時にEVに改造すれば車の寿命を延ばし、燃料費の負担も減らせる」と話す。

秋田で

稼働させるのは、5月下旬から9月いっぱいまで。タイマーで、午前7時から夕方5時まで動かす。暑いときには前後1時間ずつ伸ばす。フィル

同研究会の鎌田学会長は「100万円出して新車を買おうより、車検時にEVに改造すれば車の寿命を延ばし、燃料費の負担も減らせる」と話す。

この夏 エコで効いた暑熱対策

岐阜県本巣市で、養液栽培のガーベラを栽培する高橋明利さん(64)は、遮光ネットを使った手作りのパッドアンドファンを考案。6年前、33坪のハウスを建てる時、幅36坪の妻面の全面に取り付けた。上部から水を垂らして湿らせ、反対側の

高橋明利さん

遮光ネット利用 市販品に負けぬ効果



「資材はこれ」と遮光ネットを手にする高橋さん

ッドアンドファンを導入していると花茎がストロークしている友人が「うちのになつて花の重みでしおと変わらない」と驚いたという。

「6年使って問題ない。

利用での開閉作業作業性が向上④対は、ピーマン、ミカウリ、ナスなどの

売した。本製品は、本体の上に継

